

## 観光資源の評価におけるガイド付き観光の有効性

### Validity of guided tours on tourist resources

富川久美子

#### 要旨

ガイド付き観光は、観光資源によって魅力を高める効果がある。このような観光資源が特定できれば、地域の多様な観光資源を選択的にガイド付きにすることで観光振興に繋げることが期待できる。これまでガイドの役割を論じた研究は、観光形態や職種を限定したものに限られる。本研究は、ガイド付き観光によって商品価値が高まる観光資源を明らかにすることを目的とした。調査は、京都府福知山市で開催されたモニターツアーを対象とした。その結果、社寺、および自然と人文の複合資源に対して有効であることが明らかになった。

キーワード：観光資源 Tourist resource、ガイド付き観光 Guided tour、評価 Valuation

#### はじめに

日本の観光は、1990年代後半頃から、環境にやさしい観光や、持続可能な観光が叫ばれるようになり、自然や地域の文化を観光資源として活かそうとする観光が盛んになった。そのなかで、グリーンツーリズムやエコツーリズム、エコミュージアム、ヘリテージツーリズムなどと称される観光形態が盛んになった。これらの観光形態に共通してみられるのは、見るだけではなく、体験したり、学んだりすることが含まれている。そのため、観光者に対する受け入れ側の情報提供、とくに専門家や住民による説明が重要な役割を担うようになった。

このようなガイドによる説明付きの観光は、観光資源の魅力を高める効果がある。とくに有名な観光資源をもたない地域では、観光ボランティアガイドによる施設や町並みの案内をすることで、観光商品としての価値を高め、観光振興に繋がることも期待される。しかし、観光資源の全てがガイドをつけることで価値や評価が高まるわけではない。自然や文化、歴史の解説は有効であるが、娯楽施設や温泉施設では不要であろう。

---

受理：2006年10月1日

ガイドをつけることで商品価値が高まる観光資源が解明できれば、地域の多様な観光資源を選択的にガイド付きにすることで観光振興に繋げることが期待できる。しかし、これまでの観光研究においてガイドの役割を論じた研究はいくつか見られるが、それらは、特定の観光形態、あるいはツアーエスコートや通訳案内士などの特定の職種を対象とした研究に限られ、観光資源との関係が論じられてこなかった。

本研究では、一地域を事例に、あらゆる観光資源の中で、ガイドつき観光によって商品価値が高まる資源を明らかにする。調査は、京都府福知山市で開催されたモニターツアーを対象とする。

福知山市が主催したモニターツアーは、市民を対象に、市内のあらゆる観光資源を認識してもらうことと、それらの観光資源に対する評価を明らかにすることを目的として開催された。そのため、ガイドの説明付きで訪問した多様な観光資源に対する評価がある。ところで、ガイド付きであることの有効性を確認するには、高い評価を得た訪問地が、その理由としてガイド付きであったと判断できれば可能であると思われるが、評価は参加者個人が行うものであり、個人の嗜好によって評価が異なる問題がある。そのため、同一人物がガイドなしとガイド付きで同じ観光資源を評価し、それらを比較することが望ましい。今回、調査を行ったツアーは、参加者が市の在勤・在住者であったため、すでにガイドなしで訪れている観光資源も多かった。このような理由から、このツアーは、本研究の目的とするガイド付き観光の有効性を測るには適当である。

## 1. ガイドの呼称と役割

ガイドの呼称は、観光形態や、案内する対象や場所によって異なる。エコツアーでは、受身でいるだけでは気づくことも知ることもなかったことを、ガイドなどによって手に入れるとされ、その手段として、情報提供や体験を通しての働きかけをすることをガイドダンスとする<sup>i</sup>。つまり、その働きかけをする者がガイドである。エコツアーでは、とくに自然を解説するネイチャーガイドがよく見られる。また、ヘリテージツーリズムでは、ガイドはインタープリターと称される<sup>ii</sup>。そして、観光ガイドは、観光地の案内・解説を行い、バスガイドは観光バスに同乗して車窓からの案内を行う者である<sup>iii</sup>。その他、外国人観光客を案内する通訳案内士や、博物館や美術館の学芸員などもある。このように、観光形態や職種によって呼称はそれぞれ異なっているが、ガイドは、自然資源や、文化遺産、有形、無形を問わずあらゆる観光資源に対して観光者と結びつける役割があるといえる。

本研究の調査対象とするツアーでは、バスガイドや、観光施設で案内をするボランティアガイド、行政当局の担当者、社寺では宮司や住職など、それぞれの観光資源に精通している者が各地で解説をおこなった。本研究では、これらの解説者全てを、観光者と観光資源を結びつける媒体と見なし、ガイドと称する。

## 2. 福知山市の観光

京都府福知山市は、2006年1月に1市3町が合併し、人口約84,000人の市となった。合併以前、2005年の福知山市の人口は約7万人、観光入込客数は約426,000人であった。このうちイベント観光による入込は、約37%を占めている。観光施設の中で入込客が最も多いのが温泉施設(約17万人)、続いて動物園(約4万人)、観音寺(約28,000人)であり、福知山市のシンボルである福知山城は約23,000人でしかない。福知山市と合併した3町は、夜久野町、三和町、大江町であり、各町の2005年の観光入込客数は、それぞれ約78,000人、72,000人、23万人であった。大江町では、観光入込客数が最も多いのが大江山(10万人)であり、続いて元伊勢神宮(約7万人)である<sup>iv</sup>。市は、合併により広域となったことで、観光資源が増加し、観光発展への期待を高めている。そして、合併後の行政組織の改編を機に、新しく観光振興課を設置した。

観光振興課では、2007年に観光振興ビジョンを策定するにあたり、市の観光資源に対する調査を行っている。その一環として、2006年に全3回のモニターツアーを実施している。

## 3. 観光資源の評価とガイド付き観光の有効性

第一回目のモニターツアーが8月28日、29日の2日間にわたって開催された。このツアーは旧1市3町の地域を方面別に4コース設定され、28日に旧市内コースと夜久野方面コース、29日には三和方面コースと大江方面コースが実施された。参加者にとっては、多様な観光資源をガイドの解説付きで見て回る「学ぶツアー」であった。福知山市では、通常、ガイド付きツアーは催行されていないため、参加者がツアー参加以前に訪問経験のある観光資源では、ガイドの解説なしで訪れていることになる。

筆者は、この8月に開催されたモニターツアーの参加者に対してアンケート調査を行った。この調査結果をもとに、観光資源ごとにガイド付き観光の有効性を確認する。その基準として、次の3点を考慮する。

- ① ツアー参加による評価が高い観光資源を対象とする。
- ② ツアー催行以前に、すでに高い評価を得ている観光資源を除く。
- ③ 上記①のなかで、評価の理由として、「解説によって学んだ」、「理解した」などのアンケートの回答から解説があったことが高い評価に繋がったと判断できる観光資源を抽出する。

ツアーの参加者数は、旧市内コース26名、夜久野方面コース41名、三和方面コース41名、大江方面コース39名であり、その中でアンケートの回答者は、ほぼ全員にあたる。各コースの回答者の人数、男女の別、年代層は表1のとおりである。男女の別、年齢層の幅および平均とも、コースに偏りがないことが確認できる。

アンケートでは、すでに訪れたことのある観光資源と、その中で「お気に入り」がある場合はそれをチェックしてもらった。ツアーで訪問後の観光資源の評価方法は、「良くない」、「あまり良くない」、

表1: コース別アンケート回答者の内訳

回答者	旧市内	夜久野方面	三和方面	大江方面
人数(人)	26	39	40	39
性別(人)	女13、男13	女16、男19	女22、男16	女15、男10
年代(歳代)	20~70	10~70	10~70	10~70
平均年代	50代前半	40代後半	50代後半	40代後半

「ふつう」、「良い」、「とても良い」の中から選択する5段階評価とした。「良くない」を1とし、「とても良い」を5として回答者の平均値をもとめた。これらの結果をコース別に図に示した(図1から図4)。各コースでの評価の平均は、3.6から3.8の間であり、コース別で大きな偏りはみられない。さらに、アンケートでは、各訪問地の感想を自由に記述してもらった。そのため、評価の理由や評価基準が把握できる。この自由記述から、大まかに同様の内容をまとめ、評価が平均の3.7以上である観光資源を表に示した(表2から表5)。

以上の図と表を参照しながら、ツアー参加以前と参加後の観光資源に対する評価を比較し、高い評価を得た観光資源がガイドつきであることが要因であったか否かを確認する。

まず、図1の旧市内コースから、評価の高い観光資源をみると、天寧寺、福知山城、治水記念館、動物園が4.0以上である。天寧寺は、「訪問経験」は多くはないが、そのうちの「お気に入り」の割合は少ないといえる。しかし、その割には評価が4.3と、かなり高い。これは、表2に見るとおり、「住職の説明がよかった」ためであることが明らかである。また、治水記念館は、「お気に入り」は少ないが、訪問経験者も少ないことから、評価の基準としては不足であるが、4.0と高い評価を得、この要因として表2から、「解説によって理解できたこと」が挙げられる。そこで、ここでは解説があったことが評価を高めた一要因としておく。一方、福知山城は、訪問経験数が最も多いが「お気に入り」の割合が低く、ツアー参加後の評価が高い。ところが、表2の感想からはガイド付きであったことが評価を高くしたとは判断できない。これと同様に、動物園においても、訪問者数に比較して「お気に入り」の割合がかなり低く、今回のツアーによって評価が高まったのであるが、その要因としてのガイドの存在は確認できない。

次に、図2の夜久野方面コースでは、雲原砂防、玄武岩公園、木と漆の館、が高い評価を得ている。雲原砂防は、4.1であるが、訪問経験者が少なく、そのうちの半数が「お気に入り」としているため、ガイドなしでも比較的魅力的な観光資源であると思われた。ところが、表3からは、9名が「説明に感動」や「驚いた」と回答していることから、ガイドの解説が大きく影響したと確認できる。しかし、玄武岩公園および木と漆の館に関しては、ガイドによる効果は全くみられない。一方、長尾の薬師堂は、それほど高い評価ではないが、「お気に入り」が少ない。しかし、住職の解説に対する評判がかなり高いため、これが評価を高めた一要因と認められる。

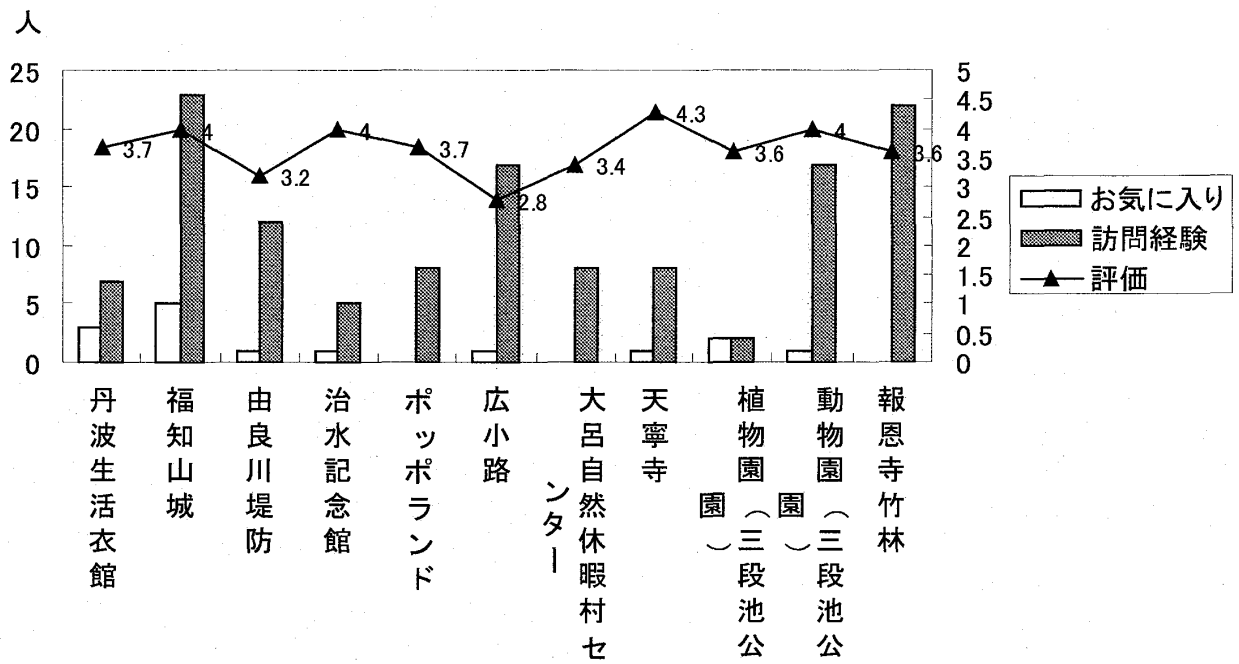


図1：旧市内コースの観光資源の評価、および訪問経験とお気に入りの人数

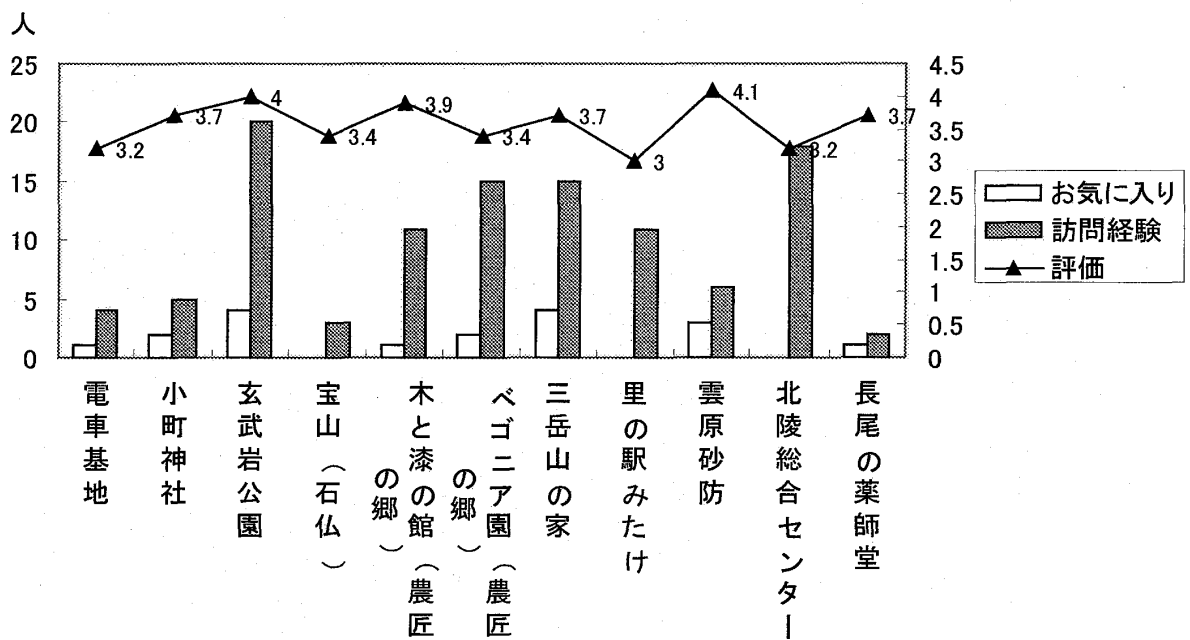


図2：夜久野方面コースの観光資源の評価、および訪問経験とお気に入りの人数

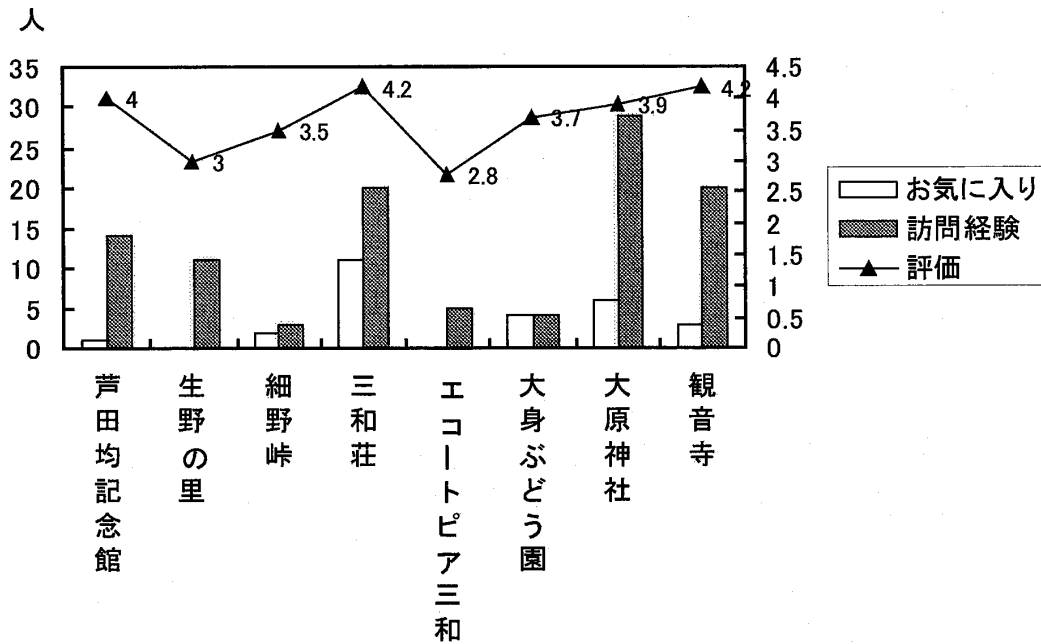


図3：三和方面コースの観光資源の評価、および訪問経験とお気に入りの人数

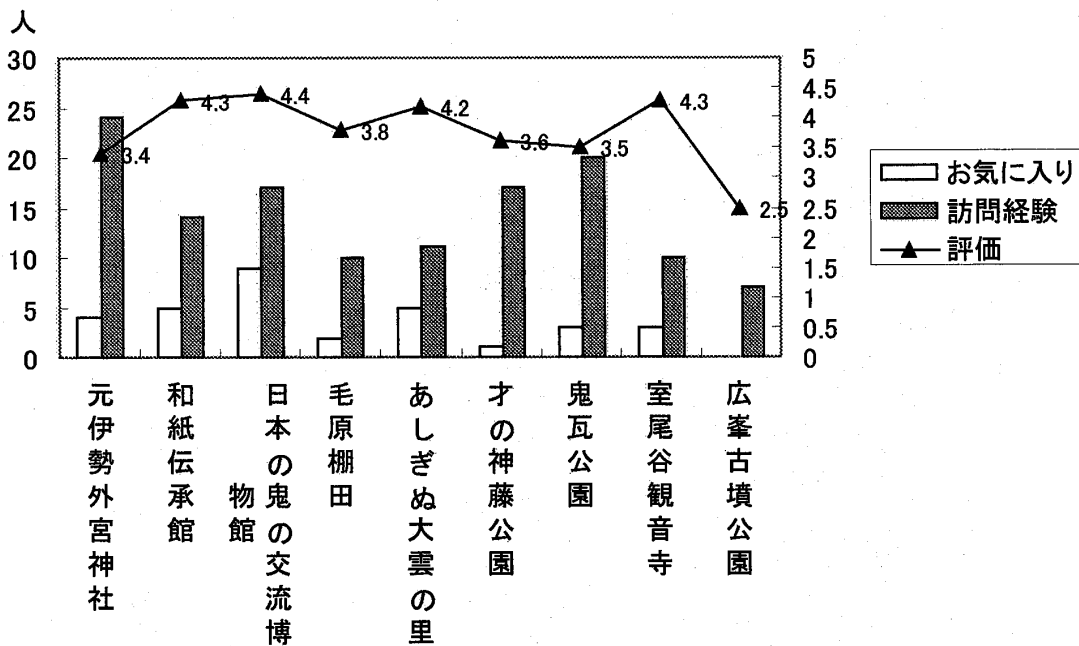


図4：大江方面コースの観光資源の評価、および訪問経験とお気に入りの人数

表 2 : 旧市内コースの評価と感想

訪問地	評価	感想
丹波生活衣館	3.7	体験が出来るのが良い (5)
福知山城	4.0	資料の展示が良い (2)
治水記念館	4.0	理解できた (4) 参考になった、勉強になった (3)
ポップランド	3.7	懐かしい (2)、片付けて欲しい (2)
昼食	3.9	充分、美味しい (7)
天寧寺	4.3	住職の説明が良い (5)、知らなかった (2)
動物園 (三段池公園)	4.0	ふれあいが良い (3)

注：評価は5段階評価の平均値。感想の ( ) の数字は回答者の人数を表す。表 3-5 も同様

表 3 : 夜久野方面コースの評価と感想

訪問地	評価	感想
小町神社	3.7	整備が必要 (3)
玄武岩公園	4.0	草刈りなどの管理不足 (5)、自然の素晴らしさ (4)
木と漆の館 (農匠の郷)	3.9	作品がよい (6)
三岳山の家	3.7	建物がよい (4)
雲原砂防	4.1	説明に感動・驚いた (9)
長尾の薬師堂	3.7	説明がよい、感動 (5)、薬師が見られた (3)

表 4 : 三和方面コースの評価と感想

訪問地	評価	感想
芦田均記念館	4.0	ビデオで学んだ (4)、説明で理解した (3)
三和荘	4.2	食事がよい (8)
大身ぶどう園	3.7	美味しかった (6)
大原神社	3.9	産屋がよい (3)、説明がよい (3)
観音寺	4.2	住職の話がよい (11)、本堂が良い・驚いた (9)

表 5 : 大江方面コースの評価と感想

訪問地	評価	感想
和紙伝承館	4.3	理解できた (4)、価値ある伝統 (3)
日本の鬼の交流博物館	4.4	館長の話が良かった (4)、アップルパイが美味しかった (4)
毛原棚田	3.8	雨で残念 (7)
あしぎぬ大雲の里	4.2	貴重な文化財 (3)
室尾谷観音寺	4.3	収蔵品が見られた (4)、管理が良い (3)、住職の話で理解 (3)

図3の三和方面コースでは、4.2と最も評価が高い三和荘と観音寺をみると、三和荘は、訪問経験者の過半数が「お気に入り」とし、表3による評価の理由としてもガイドの解説を挙げた者がいないことから、高い評価を得ている要因はガイド以外であることが確認できる。ところが、観音寺は、「お気に入り」が多くなかったが、ツアーで高い評価を得た。その理由は表3にみるとおり、11名が住職の話がよかったことを挙げている。このように解説付きであることで大きく価値が高まったことが確認できる。次に高い評価が得られた芦田均記念館と大原神社においても、「お気に入り」が少なく、ツアーでの評価が高い。これは、ガイドによる解説に加えて、前者はビデオ、後者は施設がよかったことが要因となっている。このように、ガイドの解説は要因の一部と見なされる。

図4の大江コースでは、4.4と最も評価の高い日本の鬼の交流博物館は、すでに訪問経験者の過半数が「お気に入り」としていることで、ガイドによる効果は確認できない。また、評価が4.3と高い和紙伝承館と室尾谷観音寺では、要因として、表5から、双方とも解説があったことが挙げられるが、前者は伝統工芸として、後者は収蔵品などを理由としている者も多い。したがって、ガイド付きであることの効果は、一部と見なす。

以上4コース、41ヶ所全ての観光資源について、ガイドの解説付きによって価値が高まるか、その有効性をみてきた。そのなかで、旧市内コースの天寧寺、夜久野コースの雲原砂防、そして三和コースの観音寺は、効果がとくに大きいと判断できる。またガイドの解説が評価を高めた一要因と認められたのは、旧市内コースの治水記念館、夜久野コースの長尾の薬師堂、三和コースの芦田均記念館、大原神社、大江コースの和紙伝承館と室尾谷観音寺である。

これらの観光資源の特徴から、自然・人文、歴史、社寺、伝統工芸の4つに分類し、さらにガイドの解説が評価の高まりの要因となったかを「大きい」と「一部」の2段階に分類した(表6)。ここで雲原砂防を、自然・人文とした理由は、川の氾濫防止のために設置された砂防であるためである。歴史に分類した治水記念館は、洪水の歴史を印す古民家を改修した施設である。

表6の中に、社寺は最も多くを占める。ツアーに含まれた41ヶ所の観光資源の中で、社寺は7件のみであったが、このうちの5件が解説によって価値が高まったことが確認できた。また、自然・人文資源の両方の特徴を有する観光資源に対しても、価値が高まったことが確認できた。しかし、歴史に分類した施設と、伝統工芸に対しては、一要因として確認されたもののみである。これらは、ガイドの説明なしでも、訪問者が施設で十分な情報を得られるか、見るだけでも満喫できる可能性がある。しかし、ガイドの解説を付加することでさらに価値が高まる可能性も高い。

## おわりに

本研究では、多様な観光資源のなかで、ガイドつき観光によって商品価値が高まる資源を明らかにした。その結果、社寺および自然と人文の複合資源に対して、ガイド付き観光の効果がとくに高いこ



とが明らかになった。近年、地域のボランティアガイドが増加し、自然資源や歴史的建造物、博物館などでの案内が一般化するなかで、有名でない社寺は、それ自体が観光資源として認識されていない可能性が高い。このような社寺をはじめ、自然・人文資源においても、ガイド付き観光を実施することで、観光客の増加に繋がる可能性がある。

2000年代に入って、いわゆる「平成の大合併」以降、福知山市のように広域となったことを機に観光振興を重要視するようになった自治体は多い。有力な観光資源を持たない地域では、観光開発を課題とする自治体も多い。しかし、観光資源を増やすことは得策でなく、観光資源が有する価値を見直すことがより重要である。そのなかで、「学ぶツアー」は、観光資源の魅力を増大させ、地域の持続可能な観光発展に重要な役割を果たす観光形態である。

表6：ガイド付き観光によって高評価を得た観光資源の分類

資源の特徴	ガイド付きである要因	
	大きい	一部
自然・人文	雲原砂防	
歴史		治水記念館 芦田均記念館
社寺	観音寺 天寧寺	大原神社 室尾谷観音寺 長尾の薬師堂
伝統工芸		和紙伝承館

## 注

- <sup>i</sup> 環境省 (2004) 『エコツーリズム さあ、はじめよう!』日本交通公社、p.12 参照。  
<sup>ii</sup> 安福恵美子 (2006) 『ツーリズムと文化体験』流通経済大学、p.113 参照。  
<sup>iii</sup> 中尾清・浦達雄編著 (2006) 『観光学入門』晃洋書房、p.49 参照。  
<sup>iv</sup> ここまで、福知山市商工観光部観光振興課の資料による。

## 参考文献

- 中尾清・浦達雄編著 (2006) 『観光学入門』晃洋書房、pp.49-61。  
 小松光一編著 (1999) 『エコミュージアム 21世紀の地域おこし』家の光協会、pp.8-27。

## 参考サイト

観光ボランティアガイド <http://www.nihon-kankou.or.jp/vg/index.html>